

KASAI データバンク	人口 / 49,469 (-4)	世帯数 / 16,973 (+44)	
	H20.6.30 現在 (前月比)	男 / 24,004 (+7)	女 / 25,461 (-11)
	6月の出生数 / 22人	死亡数 / 41人	

全国初！BDF 100%使用「北条鉄道レールバス試験走行」

BDF（バイオディーゼル燃料）を100%使用した、北条鉄道レールバスの試験走行が6月29日、北条町駅と粟生駅間（13.6km）を往復して行われました。列車は午前0時に通常使用する軽油を、続いて1時20分にBDFを燃料に走行開始。加速性能や燃費を計測したところ大きな差はなく、排ガスは軽油よりもBDFの方がクリーンでした。

今後はイベント列車などに導入していく予定です。



▲ BDF 燃料を注入



▲ 1時20分試験走行開始



▲ 報道陣から取材を受ける中川市長

「全国バイオスタウンサミット」へ 中川市長

7月2日、東京の日経ホールで農林水産省主催「全国バイオスタウンサミット」が開催。政府からバイオスタウンに認定されている全国の151市町村（6月末時点）のうち、35都道府県の88市町村の首長や職員が参加しました。

加西市は、近畿の自治体初のバイオスタウン構想を策定しており、中川市長はパネリストとして招待され、BDF事業などの環境施策への取り組みを報告しました。

パネリストとして市長登壇（右から4人目）▶



▲ 石見姫路市長（左）と中川市長

中川市長が石見姫路市長と面談

7月9日、中川市長は姫路市の石見市長と面談、加西・姫路両市の連携について具体的に協議しました。市長就任以来、これまで隣接8市町長と各々個別面談を重ねてきたことの 일환です。会談では、水道事業の統合、ゴミ処理の共同化、コンピューターシステムの共通化、人事交流など、加西市が抱える行政課題について協力を要請。諸会議の席上などで各市町長との交流はあるものの、具体的課題について首長同士が意見交換できたことは貴重で、今後は事務レベルでの会合を持つこととしました。



受賞者の皆さん ▶

北条鉄道の絵 表彰式

6月28日、「北条鉄道の絵（春）」の表彰式が、北条鉄道の車両内で開催され、北条鉄道社長賞など5人が受賞。表彰式には受賞者の家族も参加、子どもの笑い声とどのかな車窓を背景に、楽しい雰囲気で行われました。また同日、北条町駅の鉄道敷地内にある消防車に「かさい 消し太郎」を命名した古角歩未さん（富田保育所）への表彰式も行われました。



▲ アスティアかさいで七夕まつり

市民参画とボランティアで集客に一役

市民グループ加西ニューピープル（小林一仁代表ほか40名）は7月6日、アスティアかさいとタイアップし、同館1階で七夕まつりを開催。ボランティアスタッフの指導のもと、外国人約20名と飛び入り参加の通りがかりの親子連れらが、短冊づくりをしたり折り紙飾りをしたりして七夕を楽しみました。

イベント終了後は、参加された方が買い物や館内を利用するなど、市民参画による伝統行事の開催が国際交流と集客アップの相乗効果をもたらしました。

西脇高校生が播州織シャツを加西市長にプレゼント

7月4日、県立西脇高校生活情報科3年生4名が市役所を訪れ、中川市長に播州織の手作りクールビズシャツを贈りました。播州織は、西脇市や加西市などが産元で、先染め織物の全国シェア8割を生産している北播磨の特産品です。

工夫を凝らしたデザインのシャツ3枚をさっそく試着。市長はとても気に入った様子で「播州織のPRに努めます。」と約束しました。

中川市長と西脇高校生 ▶



▲ 優勝した第10分団日吉部

消防操法大会V 第10分団日吉部が県大会へ

7月6日、兵庫県広域防災センター（三木市）で開催された第22回北播磨地区消防操法大会において、小型動力ポンプの部に出場した第10分団日吉部が見事優勝を飾り、8月3日（日）同地で開催される第22回兵庫県消防操法大会への出場を決めました。加西市の県大会出場は、実に16年ぶりです。

また、消防ポンプ自動車の部に出場した第9分団国正部も健闘し、敢闘賞を受賞。

とうもろこし収穫祭

北部子育て学習センターが、3月28日に種まきをした、甲和泉町の金川良次さん宅の畑で7月5日・7日、とうもろこしの収穫を行いました。地域のボランティアに支えられ親子約150人が参加。自然がいっぱいの畑で収穫を楽しみ、目で見ても手で触れて体験し、収穫の喜びと食の楽しさを味わうことができました。

親子でとうもろこしを収穫 ▶



富田小の児童が食育の一環として田植えを体験

富田小学校3年生の児童23人が6月12日、地元の畑第4営農組合の協力を得て、食育の体験学習として田植えをしました。水田に横一列に並び、泥んこになりながら、1時間余りをかけてヒノヒカリの苗を丁寧に植えました。児童らは、この苗の成長を観察しながら、秋には稲刈りをする予定です。

◀ 泥んこになりながら田植えを体験する富田小の児童たち

ライトダウンで二酸化炭素の排出抑制

加西市は、洞爺湖サミット開催初日の7月7日、午後8時から10時までの2時間、「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」を実施しました。市庁舎やランドマーク展望台、加西球場、教育施設など、市関連施設87のうち約8割の68施設（通常から消灯している施設を含めると76施設）を一斉消灯し、電力消費や二酸化炭素の排出を抑制。消灯時間を過ぎても、防犯上問題の無いと思われる施設においては、午後10時以降も継続して翌朝まで消灯しました。

なお、この事業は今後も月に1度は実施する予定にしています。



彫刻家 牛尾啓三さん 西長町アトリエで内覧会

6月21日・22日の両日、彫刻家の牛尾啓三さん（姫路市香寺町）が、ニューヨーク・マンハッタン・チェルシー地区で開催予定（9/4～）の個展を前に、加西市西長町内のアトリエで内覧会を開催。多くの方が訪れました。



▲ 西長町のアトリエで作品と共に

牛尾啓三さんからのコメント

加西の長石は長く北播磨、中播磨の景観造りの礎になってきた素材です。その石切り場跡は世界に向けて創作活動をする拠点として最適な場所として考えています。

1980年から西長町の皆様初め加西の方々にお世話になってきました。その成果の経過として、今回ニューヨークでの個展に漕ぎ着けました。時代はどんどん変わってきておりますが、地域の文化をしっかりとすることが、来るべき時代のグローバルに近づくことを信じております。今後とも芸術家としての夢を追いかけつつ地域を大切に考えていきたいと思います。